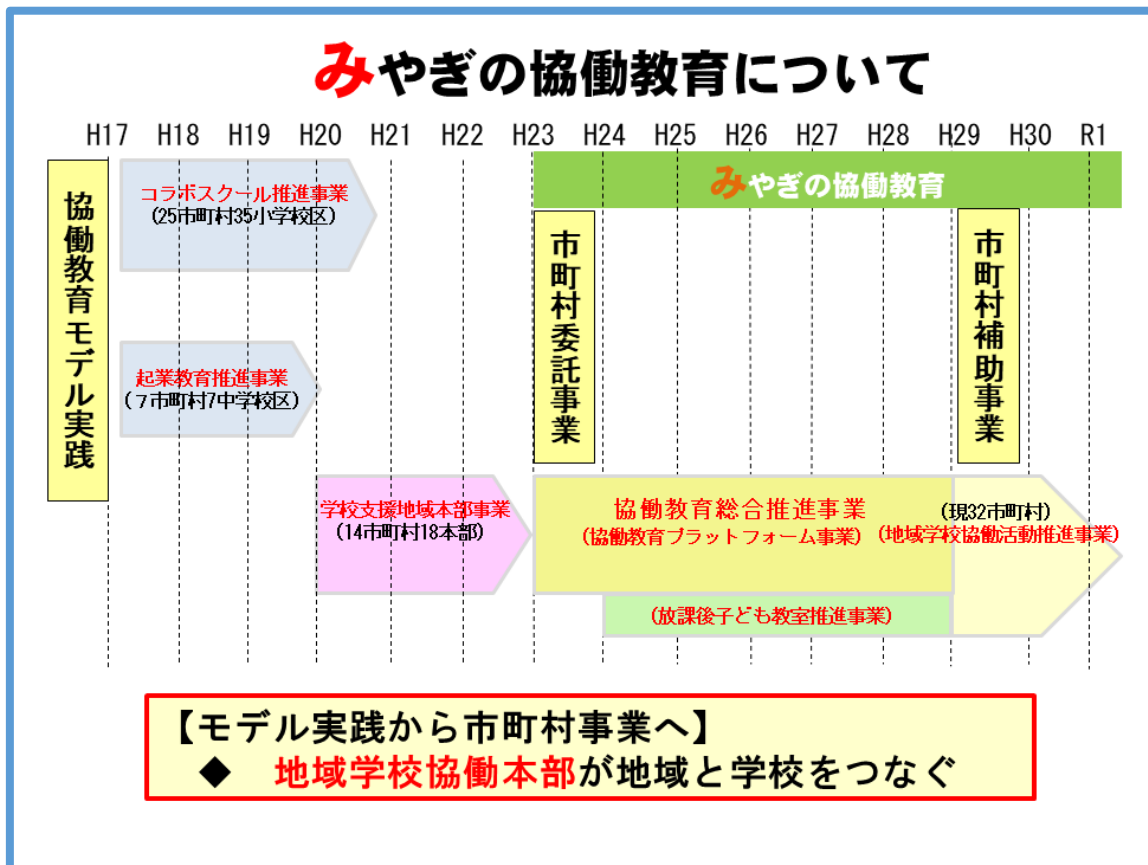


2 宮城県の「地域と学校の連携・協働」

(1) これまでの取組

本県では、平成 17 年度から、家庭・地域・学校が相互に支え合いながら強い絆で協働し、子供を育てる仕組みづくりを目的とした「みやぎの協働教育」を県の施策として推進してきました。宮城県は全国に先駆けて地域と学校の連携・協働に取り組んでいます。

初めはモデル実践でしたが、今は 32 市町村が補助金を活用し地域学校協働活動に取り組んでいます。また、他の 2 町については補助金を受けずに取り組んでいます。（仙台市を除く）



次に、平成 23 年度からの「みやぎの協働教育」（協働教育推進総合事業）の内容について見てみましょう。

(2) みやぎの協働教育（協働教育推進総合事業）

下にイメージ図を示しました。

下部の赤い破線部分が県の事業で、その上は各市町村での地域学校協働活動です。

市町村では、「学校支援活動」、「家庭教育支援活動」、「地域活動」、「放課後子供教室」等、地域の実態に応じて取り組んでいます。

学校と深い関わりがあるのが「学校支援活動」です。「学習支援」を始め、「環境整備」、「登下校の見守り」などでお世話になっていると思います。学校外でも、地域住民の方々が「家庭教育支援活動」、「地域活動」、「放課後子供教室」等で子供たちや保護者のために活動しています。

地域学校協働活動を通じて、学校を含めた地域の各団体や地域住民のネットワークにより、子供たちの成長が支えられるとともに、地域の教育力の向上や地域コミュニティの再生・活性化にもつながっています。



(3) 支援から双方向の関係へ

これまでは、地域が学校を支援するという考えが中心になっていました。しかし、子供たちは地域の宝であり、地域の未来を担う大切な人材です。学校が子供の教育を全部担うのではなく、家庭や地域も一緒に目標を共有し子供の教育に取り組む必要があります。「支援する、支援される」の貸し借りの関係ではなく、目標を共有するパートナーとしての関係づくりが求められます。



(4)「地域と学校の連携・協働」のかたち

学校と地域は目標を共有したパートナーとして、学校は「地域とともにある学校づくり」を、地域は「学校を核とした地域づくり」を目指すことで、地域の未来を切り開き、地域の発展を担う子供たちを育てることになります。そのためのツールが地域学校協働活動であり、そのキーマンがコーディネーターです。学校内のコーディネーターである地域連携担当はとても重要な役割です。

